

## 日本大学生物資源科学部が鳥獣害の現状調査や鹿の資源活用等を研究

### < 奈良県 >

市町村・集落の名称	十津川村
協働の相手（企業や大学等）の名称	日本大学生物資源科学部 全日本養鹿協会
仲介者・コーディネーターの名称	日本大学生物資源科学部 小林 信一氏 全日本養鹿協会 丹治 藤治氏
協働のポイント	本村で問題となっている有害鳥獣への対応として、駆除個体の産物利用や野生鳥獣の疫学的調査、農山村集落の活性化について、検討を行ない地域の活性化を見いだす。
協働のきっかけ・経緯	日本大学主催の「全国農村サミット2007」で、農山村が抱える課題として、「鳥獣害対策分科会」が開催された。 十津川村からは、本村での鳥獣被害の現状、今後の検討課題として、駆除個体の資源活用についての研究ができないかを依頼する。
取組の具体的な内容	日本大学生物資源科学部の学生が本村で休校している校舎を宿泊場所として利用し、シカ被害を中心とした鳥獣害被害状況の聞き取り調査を実施し、被害の現状を把握する。また、農林業者が実施している防除対策についての現状を視察する。 全日本養鹿協会の協力で、地元狩猟者、近隣の鳥獣害担当者を対象にシカの解体研修を実施。また、シカ皮の資源利用についても調査を実施する。
農村地域への効果	都市の学生に鳥獣の被害状況を話すことにより、被害の深刻さ、山間農業の現状を知ってもらい、学生の発想を活かし、山間地ならではの地域の特性を活かした活性化法を見いだせるよう期待する。
都市部の主体（企業や大学等）への効果	都市部では想像がつかない農山村が抱える現状や諸問題について、直接現地に入ることにより、実情を明確に把握することができた。
仲介者等の役割	・総括（日本大学生物資源科学部 小林 信一氏） ・日本大学と連携及び、シカの産物利用の協力（全日本養鹿協会 丹治 藤治氏）
今後の課題	鳥獣被害について、大学による調査を継続し、当村にあった被害対策、個体数調整を見いだしたい。また、駆除個体の有効利用を進めるにあたり、料理レシピの研究などをしていく必要がある。
関連事業（国・都道府県等）	